

2018/1/2-2

(ブログ)

マムの帰国 (副題：うちの一家)



急遽マムが明日ネパールに帰国することになりました。

昨日ボスに、奥さんのビムさんから、明日（つまり今日2日）、15人のネパールの仲間と富士山を見に行つて、早ければ4日に帰国するという話をしました。

するとボスが

「そりゃまた、急やな。調子悪いんか？マムは？」

ビムさんは詳しくは説明しなかったそうです。あんまり心配かけてはいけないと思ってと。ところが、昨夜、マムの調子が急に悪くなり、夜中の1時に大きな総合病院に緊急搬送してもらい、検査を受けました。

マムはここ数日何も食べられなくなり、元気もなくなっていたのです。

自分もその姿を見て、悲しくなって元気がありませんでした。

ですから、実のところ、富士山詣も本当にできるかどうか、ビムさんと二人で危ぶんでもいたのです。

しかし検査の結果は、身体的にはどこにも異常なしでした。今までも何回かほかの病院で受診をしたのですが、結果はやはり同じ。

「そりゃ、心の病だぜ」

今日、ボスに電話で、マムとビムさんの帰国が明日になったことを告げ、急ぐからと無理を言つて、フライトスケジュールのプリントアウトをもってきてもらった折に、開口一番、まずそういわれました。

「早く返すに越したことはないんっちゃうか？」

そういえばボスはマムが来日する前から言っていました。

「足が悪い。町も坂が多い。日本語も英語もしゃべれない。でも一番の問題は、昼間二人が仕事で留守なことだ。動けず、話せず部屋でぼつんとひとり。その寂しさをなんで埋めるか？それやぞ、最大の問題は。そこんどこ、わしら、よう考えにや、あかんねんで。あん？」

言われたとおりになってしまったようです。

ところで、帰国の旅路の同道者は、今回は来日時と違って、他人ではなくて、ビムさんです。ところがこれにも問題があります。

急に帰国が決まったので、ビムさんの勤め先に休暇願の連絡を取ろうとしたのですが、正月で会社はお休み。

でも、連絡がとれるまで、待ってられません。となると、無断欠勤という事に。

当然「はい、さいなら」でクビ、チョン！！です。

ビムさんが日本に帰ってきたら職探しもしなくてはなりません。

言い忘れましたが、当然今日の富士山ツアーは、自分はいけませんでした。ママを一人ほったらかしにするわけにはいかないからです。

でも、それではビムさんが可哀想なので、ビムさんだけは富士山ツアーに行かせました。本当なら、自分がネパールに帰って、向こうで一か月くらい滞在して、ママの傍にいてあげるのが一番いいことは、端（はな）から自分も分かっていたのですが、一か月も故郷に帰って、無収入になると、今度は、ネパールの息子や娘の学費の仕送りが出来なくなってしまうのです。

使用人に任せればいいではないかと言われるかもしれませんが、使用人は自分のような「営業」ができないのです。客扱いをしたことがないし、性格的にもおとなしすぎて、お通夜みたいになってしまうので、難しいのです。

それでやむなく、ママに来てもらうことに・・・

一日も休まず、働いて、毎月故郷に仕送りをする。完全な自転車操業です。

もともと来日したのも、子供たちの学費稼ぎの為でした。

子供たちはみんな医者やエンジニアになろうとしているので半端じゃないお金がかかるのです。それで、田地畑を売り払って来日したのですが・・・

ある時、そういった話をボスにすると

「何？お前らはそこまでするんか！！

しかも、上三人の子は、前妻の子？その子らのために、ビムさんま遠い国まで来て、毎日休みなく働いているのか？」

ボスはそういった後、しばらく考え込んで

「日本じゃ考えられひん。そんな子知らんわ、で終わってまうで。なんでわてがそんなん面倒見にゃ、あかんのん？で。

せやから、お前らはすごい奴らやな！！ほんま」

と。

ところがそのあと、いったん帰国した息子のジャッティンが、こちらから送った安物のシューズを不満に思って、不平たらたら、ブランド物のシューズをおねだりしてきた話をボスが聞いて、間髪入れず、即座に、

「なんじゃ、そりゃ！！甘やかすんやないで。ジャッティンは、お前ら親がどんな所に住ん

で、どんな働きぶりをして、どんなに大変か、一緒に住んどったから、つぶさに見とんのんと、ちゃうんか？

冗談やないわ。わしゃ、許さへんで、そんなん！！」

と激怒。

「友達がもっていると、どうしても、そうなるみったい」

と、一応とりなしをしたのですが、

「そんなん許しとると、ウチの以前の息子みたいな「ど腐れ餓鬼」が出来てしめても、知らへんど！！わかつとんのんかい。おんどりゃー！！

直ったんは、わしが心入れ替えて、それまでの「物わがりのええ父ちゃん」止めて、怒鳴りまくったからやぞ！！あん？それ以来、あえて時には怒鳴りまくることも必要なんやと思うようになってんねん！！分かつとんのか、てめえ、このアホンダラ」

と、またまた延々長々、激怒の第二噴火。

更にサラサラ、留まるところを知らず

「おんどりゃーみてえに、ほめるだけじゃあかん。せやかて、ワシみたいに怒るだけでもあかんねん。褒めたり、叱ったりの互い違いが、ええねん。そのへんが今の日本のあほ親は、なんも、わかつとらんで！！

おのれも日本の親も、世界中の親がトサカに毒が回った鶏みたいに、イカレまくつとんのだわ。えっ？どない思うとんねん！！」

といつの間にか批判が日本はじめ世界の親にむかったりしていました。

ボスは本当によく怒ります。

いつも噴火しています。

ただ、よく見ていると不平や不満からではない気はします。理不尽なものに対する苛立ちというか怒りというか。なんか「憤懣やるかたない」と日本語で言うところの何かみったい。まあ、ボスの話は、今日のところはどうでもいいので、とにもかくにも、ママを一刻も早く故郷に返して、悪いけれど、ビムさんには向こうで介助をしてもらって、心が癒えて和んだら、今度は日本に戻ってきたビムさんの職探しを考えなくてはなりません。

ビムさんが働かないと送金する学費が減ってしまいますし。

でも、ほんとビムさんはいい奥さんです。それだけはボスの言う通りです。ほんとに、自分には、もったいない「みったい」

Today`s story is very long, And I have almost no ability for translating in English, therefore I`ll do it later when I get the full ability, too, like a former long story.

Very sorry, I apologize you

恐縮ですが、本日も長文に付き、英訳は後日にさせていただきます。ご容赦くださいませ。